

事項	津軽地方におけるりんご害虫リンゴコカクモンハマキの発生回数の変化		
ねらい	津軽地方におけるリンゴコカクモンハマキの発生回数は、これまで年3回とされていたが、近年は年2回の発生パターンを示すように変化していることが明らかとなったので、参考に供する。		
指導参考内容	<p>津軽地方におけるフェロモントラップへの成虫誘引消長</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 昭和50年代後半から平成のはじめ頃までは、越冬世代成虫、第一世代成虫、第二世代成虫の3回の誘引ピークを持つ発生消長を示していた。 2 平成4～5年から越冬世代成虫及び第一世代成虫の誘引最盛期は遅くなる傾向が見られ、それとともに第二世代成虫の誘引が減少または見られなくなり、その後、年2回のピークを持つ発生消長が維持されている。 3 年2回発生型における越冬世代成虫及び第一世代成虫の誘引最盛期は、それぞれ6月第6半旬前後及び8月第6半旬前後である。 <p>(参考) 県南地方におけるフェロモントラップへの成虫誘引消長</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 県南地方の観測定点における発生消長は、総誘引数が少ない年が多いため判然としないものの、昭和50年代から年2回のピークを持つ発生消長を示す場合が多かった。 2 その後も発生消長が変化することはなく、年2回のピークを持つ発生消長を維持している。 		
期待される効果	防除適期の予測が可能になる。		
利用上の注意事項	発生消長は地域や年によって異なるので、地域ごとにフェロモントラップを設置し、その年の発生消長を調べ、防除適期の把握に努める。		
担当	青森県農林総合研究センターりんご試験場 病虫肥料部 青森県農林総合研究センター 病害虫防除室	対象地域	県下全域
発表文献等	昭和55年度～平成14年度 有害動植物発生予察事業年報 平成15年度 青森県農林総合研究センターりんご試験場試験研究成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

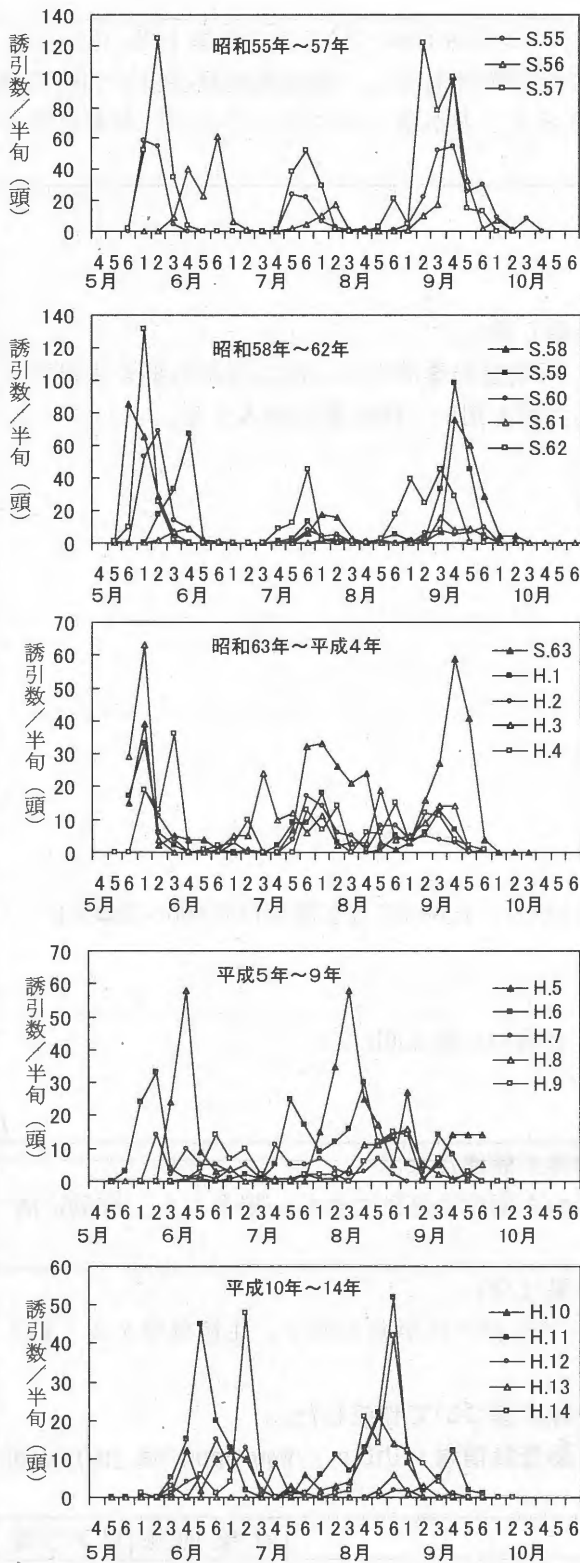


図1 地区予察ほ場（浪岡町）における誘引消長
（昭和55年～平成14年 青森農林総研）

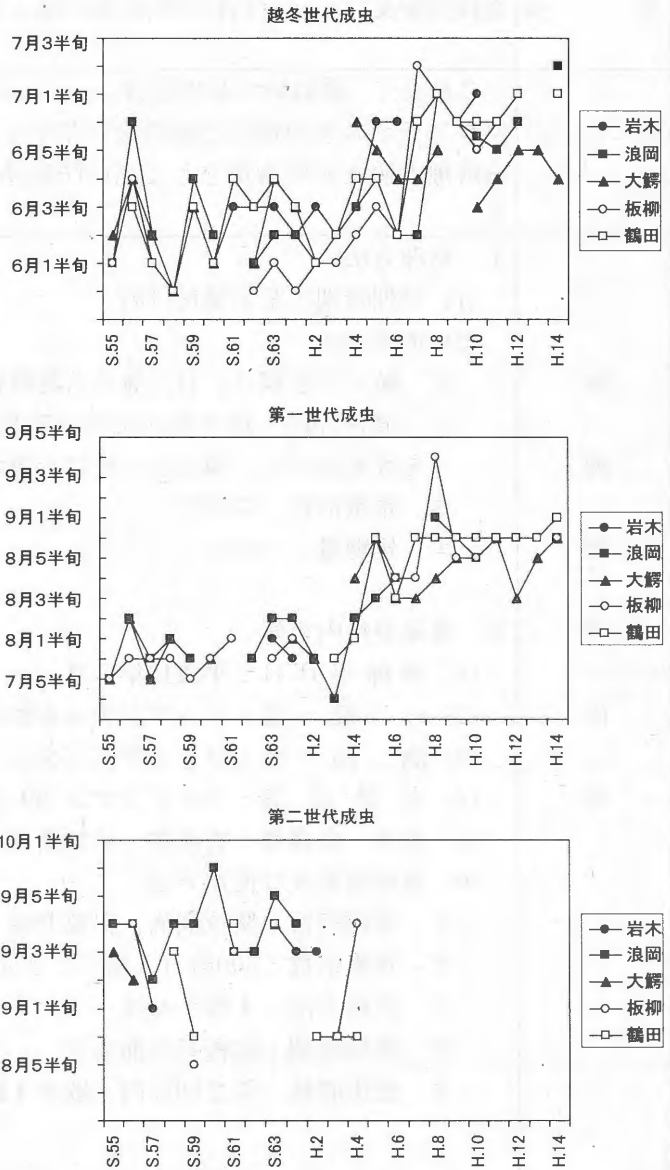


図2 地区予察ほ場における各世代成虫の
誘引最盛期の年次変化
（昭和55年～平成14年 青森農林総研）